

基本方針1 「働く場の充実」に関する整理

⇒ 【参考】これまでの取組

政策	方向性	背景となる主な現状・課題・市民意見	主な取組	KPI（進捗管理）例	市民参画の場の例
(1) 生き生きと働ける場の創出	1	労働力人口の流出抑制のため、高校生向けの地元企業PRによる就業促進など、若い世代の就職を積極的に応援します。 ◆多くの市民が、少子高齢化に伴う今後の経済活動の停滞や働き口の減少に対し、不安を抱えています。 ◆高校卒業後に宍粟市から離れた若者の多くが戻らず、若い世代の市内就職者数は減少が続いています。 ▽求人側と求職側で人材のミスマッチが生じており、必要な人材が確保できていない状況が見られます。 ▽DXをはじめ、社会潮流に応じて求人側が求める能力や人材が多様化しています。 ◆女性の就業率は上昇傾向にありますが、半数以上の女性が非正規雇用で働いている状況です。 ○仕事の選択肢が少ないので、若者が市外に出ることが多い。若者が育った宍粟市に戻ってきて、働けるまちであってほしい。	・合同企業説明会の開催により、地元高校生を中心とした若者に対して地元企業の魅力を発信 ・地元企業を紹介する企業図鑑のWEB配信 ・インターンシップの受け入れや、若手従業員の奨学金負担軽減措置を行う企業に対して補助	・企業説明会参加者数：30社 ・企業図鑑掲載企業数：30社	宍粟市人財カフル活用プラットフォーム推進会議
	2	事業者と求職者のマッチングを促進するため、関係機関と連携し、就職に関する相談体制を充実させるとともに、人材育成に取り組めます。	・総合的な仕事の相談窓口の開設による無料職業紹介、求人情報の掘り起こし ・ハローワーク求人情報の公開 ・実践型インターンシップ	無料職業紹介による就職者数：192人	
	3	仕事と生活の両立や、女性の職場復帰がしやすくなるよう、労働者のライフステージに応じた柔軟な働き方（ワーク・ライフ・バランス）を推進するとともに、職場でのハラスメント防止に向けた啓発を行います。	・宍粟市商工会との連携による啓発チラシ配布やセミナー開催 ・宍粟市商工会経済懇談会を通じた意見交換	経済懇談会の開催回数：2回/年	宍粟市商工会経済懇談会
(2) 起業支援と企業誘致の推進	4	中小企業・小規模企業の経営基盤の強化をめざし、6次産業化や広域連携による販路拡大・事業連携などを進めます。 ◆中小企業・小規模企業の減少や人材不足により、地域経済と雇用の停滞が懸念されます。 ◆付加価値の創出が不足しており、地域資源を活かしたブランド化を進めていく必要があります。	・ビジネスマッチングフェアへ出展する市内企業への支援 ・実践型インターンシップ事業による企業課題解決	ビジネスマッチングフェア参加企業数：10社	宍粟市人財カフル活用プラットフォーム推進会議
	5	事業者の持続的な経営安定に向けて、経営相談や後継者育成に向けた支援を行います。 ▽地域活力の下支えとなっている商工事業者を絶やさない取り組みが必要です。 ◆新規起業が直ちに雇用の創出につながるケースは多くないため、起業後のフォローアップ体制の充実により、雇用機会の拡大を進めていく必要があります。	・宍粟市商工会並びに金融機関と連携し創業支援協議会を設立し、相談窓口を設置 ・起業家支援条例に基づく経営相談支援 ・兵庫県よろず支援拠点と連携し、出張経営相談会の開催	起業家支援条例に基づく相談件数：32件	
	1	UJターンによる起業を含め、新規創業を促進するため、商工会をはじめとする関係機関と連携した支援体制の強化を図ります。 ○スモールビジネスの立ち上げの支援を考えていくことも必要。 ▽空き店舗や空き家がありますが、大きな用地不足や人材不足等の理由から、市外からの誘致成果は乏しい状況です。 ▽市内の生産年齢人口は少なく、若者のUJターンと起業を上手く組み合わせることが必要です。 ▽現状、起業件数は横ばいですが、創業される業種に偏りがあります。	・宍粟市商工会並びに金融機関と連携し創業支援協議会を設立し、創業支援窓口を設置 ・創業相談、創業塾の開催 ・起業家支援条例に基づく資金補助並びに経営相談支援	起業家数：8人/年	宍粟市創業支援協議会
2	産業団地の新規開発や、市外からの企業誘致につなげるため、用地確保を含めた可能性を引き続き研究するとともに、市内事業者の拡張・移転を支援します。 ◆本市では、手厚い産業立地の支援制度を整えていますが、広大な産業用地が不足しており、企業誘致の成果は乏しい状況です。 ○中国道などの交通の便を活かして、企業を誘致し、雇用促進を図ってほしい。 ▽過去の相談事例から見ても、産業団地が整備されれば、需要は十分見込めると考えられます。	・産業立地促進条例に基づき、新規立地並びに市内企業の操業拡大に対して助成 ・兵庫県並びに播磨圏域連携中枢都市圏、定住自立圏との連携による企業誘致情報の発信	・市外企業の立地件数：1件/年 ・市内企業の立地件数：1件/年		

凡例：◆…「現状と課題」に記載あり ○…「市民の声」に記載あり ▽…担当部局把握の課題など（記載なし）

基本方針2 「活気ある産業の振興」に関する整理

⇒ 【参考】これまでの取組

政策	方向性	背景となる主な現状・課題・市民意見	主な取組	K P I (進捗管理) 例	市民参画の場の例	
(3) 持続可能な循環型林業の推進	1	人工林整備の推進による適正なサイクルでの森林管理を図るため、林業生産基盤強化に向けた事業者支援を継続します。	▽人工林整備については、間伐面積は年間約600haと目標水準で推移しているものの、国・県の造林補助金が事業者に交付されていない状況があり、担い手である林業事業者の資金繰りに影響を及ぼし、一部で事業の停滞が発生するなど、人工林の計画的な整備や適正なサイクルによる森林管理の推進に支障をきたしています。	・森林作業道、林業専用道の整備や地籍調査の実施 ・間伐等の森林整備 ・新規林業事業者育成支援補助金 ・新規事業者林業機械支援事業 ・森林環境譲与税等を活用した補助事業	間伐3000ha (600ha×5年)、皆伐、少花粉スギヒノキの再造林30ha (6ha×5年)	窓口における日常的な市民・事業者との情報交換
	2	安定的で持続可能な穴粟材の流通をめざし、公共・民間建築での利用促進による、地域内循環と広域流通に取り組みます。	◆豊富な森林資源を有する一方で、人口減少に伴う住宅着工件数の減により、穴粟材の地域内需要の低下が見込まれます。	・「ひょうごの木」利用拡大協議会等を通じた、川上から川中、川下の林業事業者や国・県との連携 ・穴粟材を含め県産材が活用される仕組みを構築するよう、県に働きかける	—	—
	3	担い手を確保・育成するため、職場環境の改善を進めるとともに、中高生に対する啓発を通じて林業のイメージアップを図ります。	◆林業や農業の担い手不足や高齢化により、山林や農地の管理が行き届かず、土砂災害防止や景観形成などの多面的機能の低下が懸念されます。	・林業就業相談会の実施や「兵庫県立森林大学校」との連携強化 ・新規林業事業者育成支援補助金 ・新規事業者林業機械支援事業 ・みどりじまん新聞の配布	林業事業者育成支援補助金対象者数	—
(4) 地域特性を活かした農業の活性化	1	担い手の確保・育成に向けて、農作業労力の軽減や省力化・効率化を図ります。	○農林業が衰退していかないよう、後継者と従事者の育成や支援を行うための仕組みが必要。 ▽若者の就業促進に向けた魅力の発信が課題です。	・認定新規就農者支援の補助金 ・中山間地域等直接支払事業 ・多面的機能支払交付金事業 ・機械補助(国・県・市) ・農地中間管理機構による農地貸借 ・特定地域づくり協同組合の設立(検討中)	新規就農者2名/年	・穴粟市地域農業再生協議会 ・穴粟市農業振興三者連絡会議 ・穴粟つちのこクラブとの意見交換会
	2	農地を地域全体で守る意識の醸成につなげるため、農業組織のほか、自治会をはじめ多様な地域関係者が連携し、補完し合う体制構築をめざします。	◆遊休農地は毎年増加しており、近隣農地への悪影響と、集落の安全性・景観に支障をきたしています。 ▽後継者や担い手の不足によって、農業施設の維持に関して現耕作者にかかる負担が増加しています。(負の循環)人口減少の中で、農地は地域の財産と捉え、集落間の連帯や地域住民が一体となって取り組まないと農地・農村を守れない現状にあります。	・中山間地域等直接支払制度のネットワーク化活動計画及びネットワーク加算 ・多面的機能支払交付金	農業経営基盤促進計画(地域計画)策定件数	・穴粟市農業振興三者連絡会議
	3	農産物の魅力と需要を向上させるため、地域の特性に応じた収益性のある農産物の栽培を推進するとともに、ブランド化や6次産業化に取り組みます。	○農業収入だけでは暮らせないと思う。農家が増えるよう、所得を上げられるとよい。 ◆農業における課題は地域特性によって異なり、北部地域では収益性の高い作物の栽培促進やブランド化、南部地域では集積などによる農作業の効率化を進める必要があります。	・南北農業振興協議会による特産物振興 ・米のブランド化及びその他農産物の加工品開発 ・学校給食への提供や郷土料理の伝承による地産地消の推進		・穴粟市生活研究グループ連絡協議会 ・穴粟市南部農業振興協議会 ・穴粟北農業振興協議会 ・山崎町農会長連絡協議会 ・一宮町代表農会長会
	4	鳥獣被害による生産意欲の低下を抑制するため、より効果的な捕獲活動を展開します。	○農業経営の安定化及び継続意欲を保つ仕組みが必要。 ▽毎年、平均約12,000千円の鳥獣被害が発生しています。所得の低下、生産意欲の低下に繋がる恐れがあるため、猟友会・市民(自治会)・行政が協働した対策が必要です。	・中山間地域等直接支払事業 ・多面的機能支払交付金事業 ・鳥獣対策事業 (・農地再生応援事業)	中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金の活用面積	・穴粟市地域農業再生協議会 ・穴粟市農業振興三者連絡会議
(5) 地域資源の活用による観光の振興	1	観光ニーズの変化に対応するため、豊かな自然を活かした森林セラピーなどのアウトドア活動を中心とした体験型観光を推進します。また、点在する観光コンテンツを結び付け、市内を周遊するツーリズムの構築を図ります。	◆「日本酒発祥の地」や「豊かな自然や森林」といった資源があり、他地域にはない観光コンテンツも複数展開していますが、観光入込客数は減少傾向が見られます。目的地として選ばれるコンテンツの確立や、観光に対する市民の関心を高める取組を進める必要があります。 ○森林という素晴らしい財産を活かして、観光を活性化させてほしい。 ○穴粟の森を活かした子どもから大人まで楽しめる施設ができると、観光客も増えるのでは。	・50名山や音水湖におけるカヌー等での自然体験や、波賀森林鉄道 ・二輪車ツーリズムの推進 ・森林セラピーと宿泊施設等の連携の促進や、森林鉄道遺構ハイキング等の新規コンテンツの造成	大規模観光イベントの集客者数	
	2	観光情報を効果的に市民や観光客に届けるため、多様な媒体を用いて、質の高い情報発信に取り組みます。	◆近年、スマホ・SNSが観光客の情報収集手段の中心となるなど、観光客の意思決定プロセスやニーズが大きく変化しています。 ◆【再】目的地として選ばれるコンテンツの確立や、観光に対する市民の関心を高める取組を進める必要があります。 ○「穴粟市だけ」という特化するものがあればよいと思う。	・SNS等による情報発信	SNSの更新頻度100回/年	観光プラットフォーム
	3	観光資源を最大限に活用するため、観光関連事業者・団体、農林業、飲食業、商工業などの異業種連携及び地域との連携の体制づくりを進めます。	○「穴粟市だけ」という特化するものがあればよいと思う。	・モニターツアーの営業 ・発酵、日本酒づくりをテーマにした観光の推進(イベント)	異業種連携に関する会議開催回数	
	4	年間を通じた観光客の誘致に向けて、中心市街地におけるまち並み景観の更なる活用と、受け入れ体制の充実を図ります。	◆経済効果の低い日帰り観光が主流となっており、また、年間を通じた観光客の誘致が不足しています。 ▽県の歴史的景観形成地区指定を受けていますが、もみじ・藤の季節しか誘客がない現状です。	・しそう森林王国観光協会の運営や事業展開への支援 ・起業家支援条例において、中心市街地の飲食業の支援を上乘せ	(観光動態調査)	

凡例：◆…「現状と課題」に記載あり ○…「市民の声」に記載あり ▽…担当部局把握の課題など(記載なし)

基本方針3「選ばれるまちの創出」に関する整理

⇒ 【参考】これまでの取組

政策	方向性	背景となる主な現状・課題・市民意見	主な取組	KPI（進捗管理）例	市民参画の場の例	
(6) シティプロモーションの推進	1	本市の魅力を広く伝えるため、特産品のブランド化を進めつつ、ふるさと納税制度のポータルサイトや営業活動を通じた効果的なPRを推進します。	◆多様な形で「宍粟市に関わってみたい」と感じてもらえる関係人口を創出していく必要があります。 ○SNSで宣伝して宍粟市の知名度を上げ、観光客や移住者を増やし、豊かなまちになってほしい。	・ふるさと納税推進委員会（毎月開催） ・【既出】米のブランド化及びその他農産物の加工品開発	新規参画事業者数	ふるさと納税推進委員会
	2	関係人口の増加に向けて、「日本酒発祥のまち」や「森林と共に生きるまち」など、郷土の豊かな歴史や地域資源を通じた魅力の再発掘に取り組みます。	○自然に関するイベントを増やして、宍粟市のことをもっと知ってもらうことが必要。	・しそ発酵フェアの開催 ・「発酵のふるさと宍粟」ロゴマークの作成 ・講演会の開催		
	3	シビックプライドの形成に向けて、市公式インスタグラムなど、SNSによる市内外に向けた情報発信を進めるとともに、市民が宍粟市の魅力に触れる機会の充実を図ります。	◆近年、SNSや動画プラットフォームが、市内外の人が本市の情報を入手する主要なツールになっています。 ○外へ出て帰ってくるのが幸せだと感じられる地域にしたい。 ○人口の流出は止めることが難しいかもしれないが、住んでいる私達が自分達のまちを好きでいることが大事だと思います。	・インスタグラムによる観光情報発信 ・マスコットキャラクター「しーたん」のLINEスタンプ販売による魅力発信 ・観光VR動画を活用した魅力発信	インスタグラムフォロワー数：3,000人	ふるさと宍粟観光プラットフォーム
	4	宍粟市への愛着の醸成につなげるため、宍粟市風景ビジョンの意義や方向性を市民・事業者・行政で共有します。	◆本市では、魅力ある風景を維持し、さらに磨きをかけることで来訪者の満足感を高め、知名度の向上や地域経済の活性化、市民としての誇りや自信につなげることをめざし、「宍粟市風景ビジョン」を策定しています。	・みどりじまん新聞の発行	みどりじまん新聞の発行：年4回	
(7) 移住の推進	1	移住希望者へ情報を的確に届けられるよう、多様な媒体や手段を活用し、発信力の強化を図ります。	▽移住先として選ばれるまちになるために、上記のシティプロモーションとあわせ、他団体との魅力の差別化と、移住希望者が求める情報を分かりやすく届けることが必要です。	・都市部における移住相談会への出展		
	2	空き家の活用を推進するため、空き家バンクの充実や空き家改修支援の強化を図ります。	◆単身高齢者世帯の増加に伴い、今後も空き家が増加することが予測され、市民の不安要因となっています。 ◆空き家を利用した移住が年間15～20世帯あるなど、本市の空き家バンク制度は全国的に見ても高い成約率を達成しています。 ▽空き家のうち約35%は外観状態にほぼ問題がなく、利活用が可能と思われる状態です。	・宍粟市空き家バンク制度の充実 ・定住促進員の配置 ・空き家活用推進事業補助金	空き家バンク登録件数及び成約率、空き家相談件数	空き家対策協議会
	3	若者の定住と移住体制の充実のため、子育て世代の住宅取得支援や職業紹介など、様々な分野における横断的な連携を推進します。	▽現在、移住者に対する行政支援は、就職や子育てなど、分野ごとに個別実施していますが、更なる連携強化と、市民（地元）・事業者・行政での情報共有が必要です。 ○働く場所がなければ、移住や卒業後に住むのに選ばれるまちにはならないと思う。 ○小さな市だからこそ、人々の関わりと温かさが宍粟市の良さだと思います。	・各所管における相談支援 ・森林の家づくり応援事業補助金		
4	女性の回帰率を向上させるため、市民や事業者と連携して雇用環境・生活基盤・ジェンダー意識の改善に取り組みます。	◆高校卒業後の進路で宍粟市から離れた若者の多くが、そのまま市外で就職・結婚する傾向が強く、特に女性の回帰率の低さが喫緊の課題となっています。	・事業所向け働き方セミナーの開催 ・女性向け働き方セミナーの開催 ・出前チャレンジ相談の開催（起業・働き方等に関するキャリアカウンセラー相談）			

凡例：◆…「現状と課題」に記載あり ○…「市民の声」に記載あり ▽…担当部局把握の課題など（記載なし）